

toVO トヴオ PLUS

www.tovo2011.com

SEASON 2

謹んで初春のお慶びを申し上げます



NO. **022**
20140111

あおもりの100家族、わたしたちのごめから。



www.tovo2011.com



インタビュー

今号のご家族 ▶ 北山 貴浩さん・美希子さん・美芽莉ちゃん・莉希愛ちゃん
ひめり りのあ

撮影場所 ▶ おかしのオクムラ(黒石市)

●2011年3月11日のこと、覚えていますか？

▶美希子さん「お店に出ました。すごくビックリして怖くて…。その時は莉希愛がお腹にいて、もうすぐ臨月だったんですよ。それで、ビックリしたらお腹が張ってカチカチになっちゃって(笑) 揺れの後、すぐ停電になったし、保育園の美芽莉のことが、心配で心配で、お腹の具合が落ち着いてから、保育園まで送ってもらいました。保育園の玄関先で子どもたちみんなジャンパー着て、毛布にくるまってお迎えを待ってたのを覚えてます。」▶貴浩さん「大工の仕事をしてるんですが、その時はなんだか目の前が揺れるし、足場も揺れるし『具合悪くなったか〜?』と思いました(笑) 周りを見たら信号が全部消えてて、あ、地震だなと。作業が一旦中止になったので、妻に電話したんですけど、全然繋がらなくてどうしようと思いました。手元が見える間は仕事をして、暗くなる前に帰りました。」

●その日の夜のことは覚えていますか？

▶美希子さん「普段、ジジとババ2人でいる実家に、私たちと、弟夫婦が集まって過ごしました。だるまストーブを出して、灯りはキャンドルを使いました。美芽莉も、弟夫婦の子も不安そうだったんですが、私が集めてたバタさんとかの可愛いキャンドルを使ったらなんだか楽しそうでした(笑) 弟と一緒に外に出てみたら、知らないオジさんがいて『町中の電気消えたら、こんなに空がキレイだね』って言うんですけど、真っ暗だし、やっぱり怖かったです(笑)」

●次の日は? ▶美希子さん「停電でお店の冷蔵庫が使えなくなって、ケーキがいっぱい残っちゃったので、それを箱に詰めて、向かいのスーパーに並んでる人た

ちに安く売ってなんとかしました。電気の復旧は、お店が駅前なので割と早くて助かりました。」

●震災以降、変化はありましたか？

▶貴浩さん「震災後の仕事が被災地での仮設住宅の建設だったんです。実際に足を運んで、余震もある中で、瓦礫の山とか、自衛隊員や警察が活動してるのとかを見ながら作業して、凄いいことになってるんだと実感しましたね。通勤のガソリンが大変で、3時間待っても満タンにできない状況だったので、貴重なものなんだなあと改めて思ったり。」▶美希子さん「缶詰を買うようになりましたね〜。あとは、出かけるときに、おむつとおんぶ紐を持ったり。とにかく、万が一の時の子どもたちの事を一番に考えて。美芽莉は早くにおむつ外れてたので、当時の買い物でおむつに困ることはなかったんですけど、たまに必要な時は、布おむつを使ったりしてました。あとは、ネットで『カーテンを使っておんぶ紐を作る』とか、そういうのをいっぱい見ました(笑) 当時、私は妊婦だったし、子どものことを思いながら、きっとTVで報道される亡くなった方の数に、妊婦さんのお腹の中の子は入ってないんだろうなって、すごく悲しかったです。」

●10年後は? ▶美希子さん「何でも話してくれればイイなあ。とにかく毎日楽しく過ごしていきたいです。美芽莉は、ウチの仕事が好きで、お菓子作りとか、お客さんとお話したいってよく言ってます(笑) いつ何があるか分からないので、大好きっていうのはいつも伝えてます。」▶貴浩さん「やめてー!って言うよね(笑) チューしないでー!とか(笑)」▶美希子さん「もう!美芽莉と、莉希愛大好き〜(笑) 終

定期購読のお申し込み 1年間の定期購読を承ります。1,500円(送料・寄付金) / 1年間(12号)です。ご希望の方は、「郵便番号・ご住所・お名前」を明記の上、メール (info@tovo2011.com) にてお申し込みください。シーズン1(No.000~No.011 / 12号セット)は、1,500円で販売中です。

編集後記 イベントで似顔絵描きをやっていたときにお客さんとして来てくれた美希子さんと娘ちゃんたち。仲良しでおしゃれさんなファミリーはみんな笑顔が素敵でした。お話の端々でうかがえるババママの真摯な愛情とオクムラさんのおいしいお菓子。娘ちゃんたちは幸せですよ〜こどもは幸せでなければならないと思うのです。tovoの活動はこどもたちの幸せにつながっているんだと believe。【坂本小雪】

東日本大地震・津波被災者チャリティ

tovo トヴォ

2011年6月~2013年12月25日まで

¥2,087,325

を寄付することができました。ご協力に感謝いたします。

【tovo / トヴォ】は、2011年3月11日の東日本大震災によって、親を失った子どもたちを、青森から支援するプロジェクトです。チャリティグッズを制作・販売し、その経費を除いた全ての収益を、長期的な子どもたちの心のケアの為、あしなが育英会へ継続的に寄付し、青森から「あなたがたのそばにいつもいますよ」と伝え続けます。ご支援・ご協力を宜しくお願いいたします。



今号のご家族▶北山 貴浩さん・美希子さん・美芽莉ちゃん・莉希愛ちゃん

撮影場所▶おかしのおくら(黒石市)

【インタビュー】

●2011年3月11日のこと、憶えていますか？

▶美希子さん「お店に出てました。すごくビックリして怖くて…。その時は莉希愛がお腹にいて、もうすぐ臨月だったんですよ。それで、ビックリしたらお腹が張ってカチカチになっちゃって(笑) 揺れの後、すぐ停

電になったし、保育園の美芽莉のことが、心配で心配で、お腹の具合が落ち着いてから、保育園まで送ってもらいました。保育園の玄関先で子どもたちみんなジャンパー着て、毛布にくるまってお迎えを待ってたのを憶えています。」

▶貴浩さん「大工の仕事をしてるんですが、その時はなんだか目の前が揺れるし、足場も揺れるし『具合悪くなったか〜?』と思いました(笑) 周りを見たら信号が全部消えてて、あ、地震だなと。作業が一旦中止になったので、妻に電話したんですけど、全然繋がらなくてどうしようと思いました。手元が見える間は仕事をして、暗くなる前に帰りました。」

●その日の夜のことは憶えていますか？

▶美希子さん「普段、ジジとババ2人である実家に、私たちと、弟夫婦が集まって過ごしました。だるまストーブを出して、灯りはキャンドルを使いました。美芽莉も、弟夫婦の子も不安そうだったんですが、私が集めてたブタさんとかの可愛いキャンドルを使ったらなんだか楽しそうでした(笑) 弟と一緒に外に出てみたら、知らないオジさんがいて『町中の電気消えたら、こんなに空がキレイだんだなあ』って言うんですけど、真っ暗だし、やっぱり怖かったです(笑)」

●次の日は？

▶美希子さん「停電でお店の冷蔵庫が使えなくなって、ケーキがいっぱい残っちゃったので、それを箱に詰めて、向かいのスーパーに並んでる人たちに安く売ってなんとかしました。電気の復旧は、お店が駅前なので割と早くて助かりました。」

●震災以降、変化はありましたか？

▶貴浩さん「震災後の仕事が被災地での仮設住宅の建設だったんです。実際に足を運んで、余震もある中で、瓦礫の山とか、自衛隊員や警察が活動してるのとかを見ながら作業して、凄いことになってるんだと実感しましたね。通勤のガソリンが大変で、3時間待っても満タンにできない状況だったので、貴重なものなんだなあと改めて思ったり。」

▶美希子さん「缶詰を買うようになりましたね～。あとは、出かけるときに、おむつとおんぶ紐

を持ったり。とにかく、万が一の時の子どもたちの事を一番に考えて。美芽莉は早くにおむつ外れてたので、当時の買い物でおむつに困ることはなかったんですけど、たまに必要な時は、布おむつを使ったりしてました。あとは、ネットで『カーテンを使っておんぶ紐を作る』とか、そういうのをいっぱい見ました(笑) 当時、私は妊婦だったし、子どものことを思いながら、きっとTVで報道される亡くなった方の数に、妊婦さんのお腹の中の子は入ってないんだらうなって、すごく悲しかったです。」

●10年後は？

▶美希子さん「何でも話してくれればイイなあ。とにかく毎日楽しく過ごしてたいです。美芽莉は、ウチの仕事が好きで、お菓子作りとか、お客さんとお話ししたいってよく言ってます(笑) いつ何があるか分からないので、大好きっていうのはいつも伝えてます。」

▶貴浩さん「やめてー！って言うよね(笑) チューしないでー！とか(笑)」

▶美希子さん「もう！美芽莉と、莉希愛大好き～(笑)」

【編集後記】

イベントで似顔絵描きをやっていたときにお客さんとして来てくれた美希子さんと娘ちゃんたち。仲良しでおしゃれさんなファミリーはみんな笑顔が素敵でした。お話の端々でうかがえるパパママの真摯な愛情とオクムラさんのおいしいお菓子。娘ちゃんたちは幸せですよ～こどもは幸せでなければならないと思うのです。tovoの活動はこどもたちの幸せにつながっているんだとI believe. 【坂本小雪】

【寄付総額】2011年6月～2013年12月31日まで、『¥2,087,325』を寄付することができました。ご協力に感謝いたします。